

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Hypertensive disorders of pregnancy and risk of allergic conditions in children: Findings from the Japan Environment and Children's study (JECS)

和文タイトル:

妊娠中に発症した高血圧と生まれた子どもの3歳時点のアレルギー疾患発症との関連

ユニットセンター(UC)等名: メディカルサポートセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: WORLD ALLERGY ORGANIZATION JOURNAL

年: 2021 DOI: 10.1016/j.waojou.2021.100581

筆頭著者名: 羊利敏

所属 UC 名: メディカルサポートセンター

目的:

本研究では、妊娠時に発症した高血圧と生まれた子どもの3歳時点のアレルギー疾患(喘鳴、喘息、皮膚炎、花粉症、アレルギー性鼻炎、食物アレルギー)発症との関連を明らかにすることを目的とした。

方法:

エコチル調査参加者のうち、77,505組の親子のデータを解析対象とした。リスク因子の多変量解析にロジスティック回帰分析を行い、妊娠時に発症した高血圧と児のアレルギー疾患の関連を評価した。

結果:

77,505人の妊婦のうち、2,334人(3.0%)に高血圧が確認された。妊娠時に高血圧を発症した母親と血圧が正常であった母親を比べた場合、生まれた子どもの3歳時点でのアレルギー疾患の発症のリスクには差は認められなかった。

考察(研究の限界を含める):

本研究ではエコチル調査参加者のデータを用い、妊娠時に発症した高血圧と生まれた子どもの3歳時点のアレルギー疾患の発症には関連がないことを明らかにした。研究の限界点としては、1)生まれた子どものアレルギー疾患の診断は質問票から得られた情報で、医師の診断ではない点、2)妊婦の血圧の測定値は実際の測定値ではなくカルテ情報の転記である点、3)妊娠高血圧腎症のデータがないため、他の妊娠高血圧腎症に関する研究と比較できない点、等が挙げられる。

結論:

妊娠時に発症した高血圧と生まれた子どもの3歳時点のアレルギー疾患発症(喘鳴、喘息、皮膚炎、花粉症、アレルギー性鼻炎、食物アレルギー)との関連は認められなかった。